

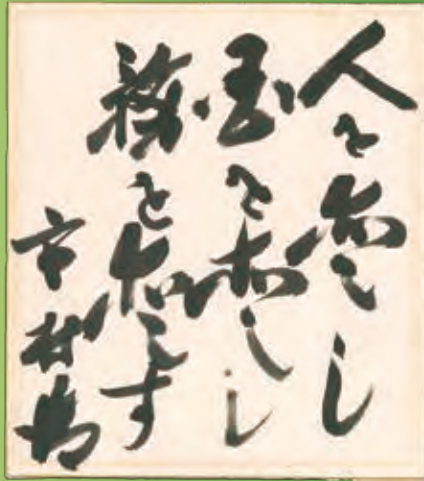
リコー三愛グループ創業の精神

三愛精神

人を愛し
国を愛し
勤めを愛す

リコー三愛グループ創業者

市村 清



市村 清 揮毫

(昭和35年5月23日 社長室において)

三愛精神は、1946（昭和21）年12月に発行されたリコー三愛グループの機関誌『三愛』創刊号に発表されました。

原文は文語体、旧字体などで記された格調高い文章ですが、難読であるため、1987年、「読みやすい三愛精神」として現代の文体で著されました。

西郷隆盛は「天を敬い、人を愛す」と言った。私は、あえて「三愛」と言っつ。

あの有名な西郷さんくらうべられたいとは思わないが、「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」という三愛精神は、私の生涯の信念である。

人間は万物の霊長といわれるが、人間ひとりひとりの価値は、人によって見方が異なる。学者が偉いと思う者もいるし、政治家、芸術家、財界人のほうが偉いとする考え方もあろう。そのいづれにもせよ、真に人間の偉さを決定するものは、その人の持つ「愛」の深さと広さではないだろうか。

すべての動物に自己保存があるように、人間も本能的に自己を愛する。下等な人間でも、自分だけは愛している。平凡な人間になると、妻子を愛し、両親を愛し、兄弟を愛する。すこし上等な人間になると、隣人愛にめざめ、次には民族を愛し、祖国愛となり、さらに進めば世界の全人類を愛する。それがなおも徹底すれば、すべての動物、ありとあらゆるものを自分と同じように愛し、ついには自己以上に愛するようになる。そのためには、自分を犠牲にしても惜しくない大きな愛の高まりにまで徹する。

この境地は、すでに仏であり神であろう。お釈迦さまやキリストがそれである。このように、愛の深さと広さが、どのくらいに段階に達しているか、それがその人間の本当の価値を決定するものであると確信する。

「愛」の精神は、すでに多くの偉人たちが説いている。しかし、私はあえて「三愛」の旗をかかげる。「三」とは何か。古典には「一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生じる」とある。けれ

ども字引に「三愛」とは出ていない。三愛は私の発見であり、同時に絶対の信念である。

私の提唱する三愛主義とは、人を愛し、国を愛し、勤めを愛する精神であるから、世界人類の一員として、まずすべての人を愛すること。日本人としては、祖国日本を愛すること。そして自己がこの世に生をうけた意義を果たすため、自分にあたえられた任務を愛して一生懸命にはげむこと。

三愛主義こそ唯一救国の大道である。日本の全国民が三愛の精神に燃えたとすれば、日本国はますます栄えると信じる。

「三は万物を生じる」の三愛精神は、どのような場合にも通用する。事業について言うならば、社員を愛し、資本を愛し、事業そのものを愛する。利益があれば、社員と、資本と、事業全体の運営改善のために、それを三分して使う。

教育について言うなら、教師を愛し、生徒を愛し、学問そのものを愛することである。

生活を楽しむなら、衣、食、住を心から愛するがよい。

自己を磨くときは、過去を反省し、現在を努力し、未来に希望を抱いて、そのすべてを愛し感謝する。

私がかねてから、この三愛の精神を信じ、三愛主義と名づけて、それを生涯の念願として実行してきた。事業の上でも「三愛」を商号とするのは、いよいよ自己の信念に忠実でありたいと願うからである。

私の愛してやまない社員諸君、今後とも三愛の精神に徹して、日本の発展に全力を傾けようではないか。